

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3290400039
法人名	医療法人エスポアール出雲クリニック
事業所名	認知症高齢者グループホームおちらと
所在地	島根県出雲市小山町362-1 (電話) 0853-25-3968

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成20年7月22日	評価確定日	平成20年8月29日

## 【情報提供票より】(20年 7月 2日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 7人, 常勤換算	6.6人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての 2階部分		

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	600 円
	夕食	400 円	おやつ	含む 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(7月 2日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.5歳	最低	77歳	最高	92歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	県立中央病院、深田医院、白枝内科、ママレード歯科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の法人は医療と介護の敷施設を敷地内に有しており、このグループホームは介護の地域密着型サービスの施設として位置付けられ、開設して2年弱が経過している。グループホームでは理念にある「物忘れを認め合い仲間同士気楽に過ごす」ことの実現に向けて利用者と職員が一同に集まって交流を図る時間を「プログラム」と銘打って毎日取組んでいる。
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者が今までの生活習慣や希望に合う生活が送れるように調査を行い、その結果を検討して職員の勤務シフトを変更する取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は主任と介護支援専門員がまとめ、職員全員で検討する方法で行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回開催されている。会議では利用者の状況や事業所の活動状況を報告し、意見交換が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族が意見や苦情を直接言い易いような関係づくりを大切にしており、意見や苦情を「意見ノート」に記して全員で共有し、解決に向けて話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	コミュニティーセンターのサークル活動への参加や小学校の公開授業への参加、小学生のボランティアの訪問の受入れなどを行っているが、地元の住民との関係作りが進んでいない。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症を患っても住み慣れた地域で暮らし続ける社会の実現を目指す」「物忘れを認め合い、仲間同士気楽に過ごしその場その場を楽しみ感動し、心豊かに意義のある時を過ごせる場の提供」等独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念へのプロセスとして利用者と職員が集う「プログラム」を実践している。立ち止まった時には、理念を基に、振り返りを行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	コミュニティセンターのサークル活動(カラオケ・生け花)、交通安全の日の立哨、神社の清掃ボランティアに参加、地域の小学校の授業公開日の見学など活発に活動している。また小学生の施設訪問も受け入れている。	○	法人で行っている認知症理解のための「交流塾」が市のレベルで成果を上げていると考えられるが、施設周辺の方々との交流を、戦略を立てて継続的に働きかけられる事を望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は主任と介護支援専門員がまとめ、全員で検討する方法で行われている。外部評価の結果を踏まえ改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催されている。会議では事業所の利用書の状況や活動の状況を報告し、意見交換や情報交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者が出席しており、事業所の考え方、運営の現場の実情を知ってもらっている。民生委員の研修の場として事業所を提供している。		
は					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には情報提供を積極的に行っている。金銭管理については出納帳の提示とサインをもらっている。その他心身の状態に応じて連絡し、2ヶ月に1回おちらとだよりを発行し、息子の会のようすや職員の異動等を知らせている。		おちらとだよりの題字は毎月順番に利用者を書いていただいている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置もあるが、職員に直接頂くことが多いので、家族の面接中に意見、不満、苦情を言いやすい関係作りを大切にしている。家族会は事業所が招集して開かれており、家族の代表が運営推進会議に出席している。		「家族会」の他にも「息子の会」「孫の会」も結成されている。積極的に交流を深め家族等の意見が運営に反映されるよう努力がなされている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引継ぎの期間を十分にとり、スムーズに移行できるようにされている。利用者にも時間をかけてきちんと説明をし納得していただいている。退職する職員や新しい職員の紹介は「プログラム」の場で行いダメージを防ぐように努めている。広報誌でも、掲載し、家族にも報告している。新人職員の教育システムを導入し、ケアの統一に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修を積極的に取り組んでおり、研修報告は全職員が閲覧できるようになっている。日常業務のケアについても、担当を決め、まとめや報告を通じて、知識の深まりや技術の向上を図っている。	○	研修参加後の報告は、全職員が閲覧できるようになっているが、更に研修効果を高めるために伝達講習を開催される事を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲グループホーム連絡協議会に加盟しており、各事業所の事例研究発表会に参加して、地域の同業者との交流や研修が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイケアセンターから入所する利用者が多く、デイケアセンターに職員が出向き馴染みの関係を築いたり、家庭を訪問したり、また家族と一緒にホームを見学してもらい、不安の軽減に努め、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう関係づくりが大切に行なわれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「利用者は人生の先輩である」という考えを共有しており、お互いが助け合い、支えあう関係が日常的に築かれている。利用者の得意分野で力を発揮してもらえよう、その日の役割を話し合うなど、きめ細やかな配慮がなされている。		
に					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、ケース担当を中心に、直接利用者の思いや希望などを聞き、その把握に努めている。本人からが困難な場合は家族や関係者から情報を得て、本人の視点に立ち話しあっている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は本人や家族の希望や意見を良く聞き、職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行いながら、それらを反映した介護計画になるよう取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のモニタリングや見直しは定期的に行われており、急な変化にも見直しされている。計画の遂行状況が分かるようにケア記録が工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者となじみの美容院へ付き添う支援や公園などへ個別対応の外出支援が行われている。また、毎週の自宅への外泊支援やホームへの家族の宿泊支援も行われている。		
いか					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は法人の母体であるクリニックが主であるが、眼科、歯科等他の専門分野の治療は、在宅時からのかかりつけ医や協力体制の病院等で受診している。家族の都合のつかない時は受診支援をし、その結果は随時家族に報告されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針」が作成されており、入所時の本人や家族に説明し同意を頂き、重度化や終末期にむけた方針の共有を、職員とともに図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の関わり方をお互いに注意しあい、利用者の誇りやプライバシーを損ねないようにしている。トイレの誘導の声かけも周りに気付かれることなくさりげなくされていた。また、記録等の個人情報の取り扱いも配慮がなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、体調や希望に合わせた支援が行われるように勤務のシフトを全職員で検討し取り組んでいる。職員の決まり事や都合を優先することなく利用者が主人公となり暮らせる支援が行なわれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は法人内から配達されるが朝、夕食、日、祝祭日は利用者も一緒に買い物や献立、味付け、盛り付けなどを行う事で、食事を楽しむ働きかけが行われている。利用者の希望があれば外食や弁当の時もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	より在宅時に近い生活リズムをという事で入浴時間についても勤務シフトの検討、変更を行い、夕食後の入浴も可能となった。利用者のより希望に沿った入浴が出来るようになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を知り、本人から希望を聞いて掃除、洗濯たたみ、ごみ出し、生け花など色々な場面で、役割を持ってもらい、楽しく続けられるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、その日の天気や利用者の希望を聞いて勤務を調整し、外出できるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊癖のある利用者の家族から施錠の希望もあったが、職員間で検討し、施錠等の拘束でなく、ケアの充実で対応することにした。家族にもお話し納得していただいた。見守りながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行った。食料品、水の備蓄は行われている。	○	夜間を想定した避難訓練の取り組みと、災害時の地域の方々を巻き込んだ協力体制の確立を望みます。また、寒い時期の災害に備え、毛布などの備品の準備も検討されれば良いと思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事。水分摂取量をチェックシートに記録し、また、定期的な血液検査により、栄養状態の把握に努めている。また、食事時利用者の摂取状況を観察しながら、適切な介助が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の集う居間、兼食堂は見晴らしが良く明るく開かれた空間となっている。利用者が活けた季節の花や観葉植物が飾られ、畳のスペースもあり、居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族と相談しながら、部屋作りが、行われており、利用者の事故防止も配慮した工夫がなされている。		部屋の窓に付けてある目隠しが気になる。地域の方々の理解を深め早期に撤去できる事を望みます。